

日風堂

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉

第93号 2016年3月31日

資料見聞

いざなぎ流御幣

御幣はもともと神への捧げ物であった。ところが、後になると神そのものが御幣に宿ると考えられるようになる。神にもいろいろな性格がある。そうなると御幣の形を神の性格や特徴にあわせて変えるようになる。香美市物部町に伝わる民間信仰・いざなぎ流の



太夫が作る御幣もそうやって形のバリエーションを増やしていったようだ。

一人の太夫が数十種類から二百種類もの御幣の切り方を伝承しているという。オンザキ様や恵比寿様など家の神やお十七夜などの月をかたどった人間を守ってくれる神霊の幣もあるが、圧倒的に多いのは、山や川に潜み、ことあれば人間に取り憑き病気にするマイナーな邪霊たちをかたどった幣だ。このような幣には目をあわす穴

を開けた物も多い。一見かわいらしくも見えるこれらの神霊こそ、もともと人間に害を与える存在である。

いざなぎ流の太夫は、あたりに漂う神霊を御幣に祈り集め、集まったところで人の行かないような所に遺棄する。こうして危険な精霊を追い返すのである。目に見えない神霊を視覚化して操作する宗教者の智慧であった。

(梅野)

金神(こんじん)の幣 金神は遊行する方角が年や季節によって変わり、その方位を犯して土木・建築・旅行などをすると7人にたたとされる方位の神である。いざなぎ流では土地神の性格も強く、「金神祭文(さいもん)」では、大悪神金神七殺は八坂神社や八王子宮に退治され、丑寅鬼門に打ち鎮められたと語る。金神の幣も、二つの異なる御幣を一つに重ねた複雑にして独特の形になっている。

いざなぎ流の里・物部

平成28年4月29日(金・祝)～6月26日(日) 梅野 光興

いざなぎ流は、香美市物部町を中心にした地域に伝わる民間信仰です。「太夫」と呼ばれる宗教者が、家や村の神の祭り、大山鎮めや荒神鎮め、米占、病人祈禱などに携わってきました。

神々を祭る時は「祭文」と呼ばれる神の由来を語る物語を読み上げ、数珠や笠竹を使った占いで神の意志を確認するため祭儀は長時間を要します。普通の屋祈禱で一日がかり、本格的な大祭になると三日から一週間かかります。また、神を祭る時は1頁でも紹介した御幣を何十本も三階の棚に切り飾り、その美しさはアート感覚。日本の物と思えないユニークなデザインの仮面は神としてあがめられ、太夫達もその扱いは慎重です。

そのルーツは謎ですが、陰陽道や修験道、神道や巫女の信仰などが渾然と一体になったものようです。同様の信仰は各地の民俗芸能の神楽などに断片的に伝えられています。いざなぎ流ほどまとまった形で残った所は貴重です。県内では吉村淑甫氏、高木啓

夫氏、県外では小松和彦氏、斎藤英喜氏、山本ひろ子氏、松尾恒一氏らが研究を進め、外国の研究者も強い関心を持っています。

当館でも、平成9年(1997)に企画展「いざなぎ流の宇宙」を開催し、図録や資料集を刊行しました。その後、1999年に「最後の太夫」が、同年東京・名古屋・大阪のINAXギャラリーで「土佐・物部村神々のかたち」展が開催、2002年にはニューヨークの美術館で御幣の展示とともに太夫の御幣切り実演も行なわれました。

このように、いざなぎ流の評価が日本、そして世界に広がる一方、いざなぎ流を伝えてきた香美市物部町は激しい過疎のため人口減が止まらず、神祭りの実施も困難な状況に陥っています。折しも当館では、2011年から収蔵庫に置ききれなくなった民具を、廃校になった旧大栃高校の体育館などで保管するようになりました。これを契機に香美市、県立大学、県外のいざなぎ流研究者と連携し「いざなぎ流と物

部川流域の文化を考える会」を発足し、大栃高校の民俗資料の公開および、いざなぎ流祭儀の公開や講演会を定期的に物部や県外で行なうようになりました。2016年は発足から5年目です。本展では、この間の調査成果を踏まえて、いざなぎ流と物部の歴史や文化を紹介したいと思います。

香美市物部町は、徳島県と境を接する険しい山岳地帯に位置し、焼畑農業や林業、楮ミツマタの栽培を主な仕事にしてきました。林業を支えるために大栃などの中心部には鋸や厚刃物の鍛冶屋がありました。近年は増えすぎたシカの被害が問題になっていますが、以前から狩猟も盛んな土地柄でした。

平家の落人伝説も各地に残っていますが、確かな史料が残るのは、大忍庄や葦生郷と呼ばれた中世以降です。本展では民具や文書によって、厳しい自然環境を利用して暮らしてきた人々の智恵や、山深い里の歴史の一端に迫ります。

いざなぎ流については、前回の企画

展から19年を経て、斎藤英喜氏「いざなぎ流 祭文と儀礼」(法蔵館)、松尾恒一氏「物部の民俗といざなぎ流」(吉川弘文館)、小松和彦氏「いざなぎ流の研究 歴史のなかのいざなぎ流太夫」(角川学芸出版)などのまとまった成果が続々と刊行されています。ここ数年間の研究会や調査成果とあわせて、祭文を記した帳面や、御幣、仮面などの祭具を展示します。

関連企画として、いざなぎ流神楽の再現と研究シンポジウムを5月7日(土)・8日(日)に開催。5月3日の歴民の日には、近年話題の「湖水祭り」の踊りを物部の民謡部の方々にレクチャーして頂き、あわせて御幣切り教室も行ないます。

当年は旧物部村が土佐山田町や香北町と合併して10周年に当たることから、小説家の京極夏彦氏と妖怪研究でも知られる小松和彦氏の講演会が高知工科大学(香美市)で香美市教育委員会主催により開催されます。いざなぎ流はもちろん妖怪や地域文化の話題が出ると思いますので、こちらもぜひご参加下さい。

過疎が続く物部町では、いざなぎ流を伝えてきた村々がひとつひとつ消えつつあります。地域の民俗文化がこれからどうなっていくのか、ともに考えていければ幸いです。



摩利支天像 近世の博士頭であった芦田主馬太夫の子孫が保管していた摩利支天画像。博士はいざなぎ流のルーツの一つと目されている。



いざなぎ流の神楽 一般的な神楽は立って舞いを舞う芸能のことだが、いざなぎ流の礼神楽や本神楽は、数人の太夫が円座をなし、祭文などを唱える。



12の仮面劇 物部町をはじめ、大豊町、香北町、香南市香我美町などの山間部では、仮面を祭る家がある。仮面は12面あるとされ、大祭の折には嫁聲取りなどの即興劇を演じる。



天中姫宮祭文 いざなぎ流の起源を物語る「いざなぎ祭文」の別のバージョンである。



ババの面 香美市物部町久保沼井にあった7面の一つ。ジジの面とともに出てきて、娘達が出した食べ物が古く、堅すぎて怒って帰ったと語る。



ケヤキの皮で作った桶 樹皮製の民具は高知県では珍しい。身近な素材を活用してきた山人の知恵である。

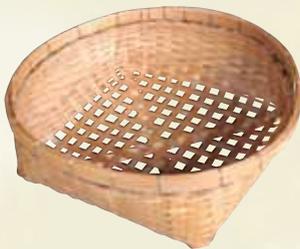
物部町市宇の風景

手前の家の屋号は月谷、奥の霧のかかった所は程野と言う。「長宗我部地検帳」にも「ホトノ」「ツキ谷」が見える。程野には現在住む者はいない。急速な過疎は数百年の村の歴史にピリオドを打とうとしている。



正月15日の粥正月に炊いたお粥を、仕事始めに作ったカイバシで果物のなる木につけ、自分の爪先につける。こうすると一年中健康だと言う。物部町中谷川の萩野雄三さんが伝える貴重な行事。

ユギカゴ 芋などの収穫物を運んだり、そのまま水で洗って泥を落としたりした。底に目が開いているので、泥を落とすのに都合が良い。



普賢堂の祭り 人家の少ない山道をかなり上がった物部町笹に普賢堂はある。昔は遠くから集まる人々で大変なにぎわいだったそうだ。現在も町外の踊り好きや物部の移住者が、昔からの村人とともに遅くまで踊り続ける。



盆の送り火 物部町別府中尾の松本善夫家の年中行事を調査させて頂いた。

いざなぎ流と物部川流域の文化を考える会 5年目を迎える

梅野 光興

平成23年（2011）、当館が旧大栃高校へ民具を保管するようになったことを契機に発足した「いざなぎ流と物部川流域の文化を考える会」。旧物部村役場のOBの方や教育委員会をはじめとする香美市の方々、県立大学文化学部の橋尾直和教授をメンバーに、小松和彦氏をはじめ、山本ひ

ろ子氏、斎藤英喜氏、松尾恒一氏ら県外のいざなぎ流研究者の面々を顧問に結成され、4年間、物部にとどまらず日本各地で研究会や現地見学で駆け回って来ました。催しの参加者は延べ2千人を越えました。5年目を迎えた会の活動を振り返ります。



②第一線の研究者が物部で、日本各地で議論の火花を散らす。写真は和光大学のシンポジウム。



①会の目玉は、めったに見ることのできない儀礼の公開。200人を越える観客が神楽を見守る。



④毎年、異なる場所・異なるテーマの研究会を日本各地で開催。平成27年の宮崎では神楽公演に参加者も大満足。



③観光地でもない物部の村々に50人を越える見学者が！写真は茅葺きの残る岡ノ内の誓渡寺。



⑥公開調査や実演で木挽きや鍛冶、狩猟など地域の技を再発見。写真は縄ないに挑戦する県立大生。



⑤毎年1回、旧大栃高校に保管された民俗資料を公開。平成26年度は全国的な学会である日本民具学会も開催。

いざなぎ流と物部川流域の文化を考える会が関わった主な事業

年月日	タイトル	場所	参加者数
2012.9.23	発足記念セミナー「いざなぎ流への招待」	香美市物部町	約150名
2012.11.24	「いざなぎ流研究の現在と物部フィールドワークの12年」	和光大学 (東京都町田市)	約150名
2013.4.20	NHK新日本風土記「高知 神々と棲む村」上映とトーク	香美市物部町	68名
2013.5.5、6	「いざなぎ流の里・物部」	香美市物部町	120+63名
2013.5.25、26	第2回旧大栃高校民俗資料一般公開	香美市物部町	約140名
2013.7.27、28	「土佐異界談義」 第1部 土佐の俗信と妖怪 第2部 山村の宗教者と呪術	高知県立大学 香美市物部町	約200名
2013.12.7、8	「いざなぎ流と近世陰陽道—「民俗」と「歴史」の視点から—」 バスツアー「いざなぎ流のルーツ、陰陽師安倍晴明を訪ねて」	佛教大学 (京都市)	57+7名
2014.5.24、25	「神々と精霊の物語—いざなぎ流祭文の世界—」	香美市物部町	121+38名
2014.11.8、9	第39回日本民具学会「民具で地域を再発見！」 第3回旧大栃高校民俗資料一般公開	香美市物部町	155名 285名
2014.11.29、30	「荒神神楽といざなぎ流」映像上映と研究会	国立歴史民俗博物館 (千葉県佐倉市)	21+32名
2015.6.6、7	「いざなぎ流の原像『博士』を求めて—大忍庄の信仰世界—」	香美市・香南市	34+206名
2015.10.3、4	「宮崎の神楽と高知のいざなぎ流—よみがえる中世神話の世界—」	宮崎公立大学 (宮崎市)	39+29名
2015.10.24、25	第4回旧大栃高校民俗資料一般公開 「モノバモノモノガタリプログラム」	香美市物部町	213+164名

※いざなぎ流と物部川流域の文化を考える会の情報をご希望の方は、住所・氏名・電話番号などを書いて、葉書やメール、FAXなどで高知県立歴史民俗資料館の梅野宛にお申し込み下さい

明神家の史料は語る

野本 亮

初めて東洋町白浜の明神邸を訪問したのは15年以上前のことでした。地元
の原田英祐氏（当館資料調査員）から
「長宗我部氏の史料」があるとの情報
をいただいたことがきっかけでした。

江戸時代初期からの白浜庄屋・明神
家の初代は、長宗我部氏遺臣の忠右衛
門信勝です。信勝の父、源八は長宗我
部盛親の近習で、主人盛親の改易に
伴って上坂。二年ほど盛親の側に居ま
りましたが、病気を患い帰国しました。

明神家に伝来する古文書は現在一五
点ほど。一点を除きすべて軸装されて
います。そのなかに、源八が主人盛親
から貰った書状（召し放ち状）があり
ます。これまでの忠節を心から感謝し、
自分のもとを去り、他家
に仕官することを認める
内容です。盛親と家臣の
人間関係がうかがえる貴
重な史料なので、これま
で何度かお借りし、長宗
我部展示室などで公開さ
せていただきました。

ところで、今回史料全
体の再調査をしたところ、
この「書状」と対になっ



豊永藤五郎等奉行人連署状
明神源八宛



白浜明神邸

ている文書を発見しました。軸の標題
には「二人書」とだけ書かれていて、
一度も公開されていない史料です。実
はこの史料は、盛親が源八の召し放ち
を承認した同じ日に出されたものでし
た。発給者は豊永藤五郎等、盛親の奉
行人です。かつて浦戸城において、家
臣団統制のために辣腕を振るった行政
官僚です。本史料の存在により、土佐
を失った盛親が、浪人となった後も、
旧家臣の再仕官に関して一定の権限を
持っているうえ、随行していた奉行人
衆の承認も必要だったことが分かりま
した。
勝手に主人のもとを去ることは、混
乱した世情であっても大変な不忠だっ
たようです。

文化庁「文化遺産オンライン」を活用した 資料情報公開に向けて

曾我 満子

当館では平成3年の開館以来、考古・
歴史・民俗の3分野をあわせて、14万
点余りの資料を収集してきました。
収蔵資料のデータについては、これ
まで、展覧会図録や研究紀要、資料目
録として公開されていますが、収蔵資
料の全容を公開するには至っていませ
ん。また、ウェブ上での資料情報公開
が課題となっていました。

本年度、文化庁から「文化遺産オ
ンライン」に参加の呼びかけをいた
だきました。「文化遺産オンライン」
は、文化庁が運営する文化遺産につい
てのポータルサイト（電子情報広場）
で、全国の博物館・美術館からの提供
により文化財のさまざまな情報
が閲覧できます。検索機能も充
実しており、利用者にとつて利
便性の高いデータベースです。
(URL <http://bunkanli.ac.jp/>)

当館もこの「文化遺産オンラ
イン」に加わることで、先ず
は、指定文化財やご利用の多い
資料を中心に100件程度の登
録を準備しています。登録資料
の中には、受託資料も含まれて
いますので、各所蔵者のご協力

もお願いしているところです。
ちなみにお問い合わせの多い資料
は、「坂本龍馬湿板写真」「絹本著色長
宗我部元親像（重要文化財 高知市秦
神社所蔵）」です。両資料とも常設展
示では複製を展示しており、原品は通
常、収蔵庫で保管しています。登録後
はウェブ上で容易に原品の画像を見る
ことができます。

これから、博物館利用の窓口ともな
る、資料情報公開に向けて「文化遺産
オンライン」を活用したデータベース
の充実を計りたいと考えています。



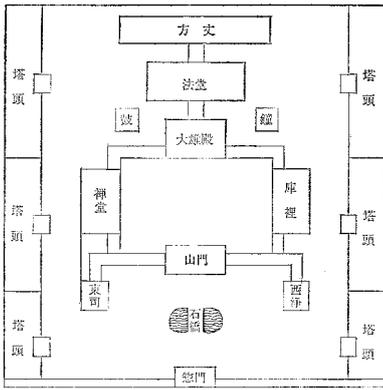
当館で最もリクエストの多い資料
坂本龍馬湿板写真 館蔵

考古

禅の伽藍

禅宗は、約1500年前、インドの菩提達磨により中国に伝えられたとされています。その後、臨済義玄により広がり、鎌倉時代に日本にもたらされました。禅文化と共に、禅宗伽藍と称される新しい伽藍の様式も伝えられました。

伽藍は、僧が修行する清浄な場所を意味し、僧伽藍摩藍を訳して伽藍と呼ぶようになりました。中世の禅宗伽藍には、七堂として山門・仏殿・法堂・庫裡・僧堂・浴室・東司(便所)があり、惣門・祖師堂・鐘楼・鼓楼・方丈・廊下などがあります。しかし、宗派により異なる事があり、注意が必要です。左図の配置をみると、門を入り人工池を渡り山門に至り、山門に回廊がつながり、西浄(浴室)、東司があります。さらに庫裡、禅堂、大雄伝(仏殿)、北に法堂があり、方丈があります。よく見ると古代寺院の伽藍と似ています。大雄伝は、金堂に相当し、法堂は講堂に類似する建物です。禅宗では不立文字(経論などの教義の伝達の他に、体験により伝えるものこそ真髄)の教義から経蔵を廃し、鼓楼



禅宗寺院の伽藍配置
『仏教考古学講座』第2巻寺院より

としています。伽藍は、教義を示すものとして重要です。(岡本)

歴史

ブラジル移民資料が統合されます

当館の歴史分野には、各時代を代表する高知県関係資料が多数収蔵されています。この収蔵資料の一部は、規定の手続きをさせていただければご納品でも閲覧することが可能です。ところで、ここ十年ぐらいの間でも閲覧申請の多かつた資料は何だか分かりますか？正解は「ブラジル移民関係資料」です。少し意外だったのではないでしょうか。

歴史分野の代表的な近代資料といえば、自由民権運動関係と、戦時資料が挙げられます。しかし、量的には下回りますが、戦前の竹村殖民商館の営業活動を記録した「移民関係資料」は、一部の移民史研究者の間では高い評価を受けています。また、平成19年度以降相次いで寄贈された崎山比佐衛・吉村繁義(海外殖民学校経営者)の資料も人気があります。ただ、一つ残念だったのが、前述した竹村殖民商館に関する資料が高知県立図書館と分かれて収蔵されていて、閲覧希望者は常に両館の資料を閲覧しないと全体を把握できないご不便をおかけしていたことでした。

この度、こうした問題を解消するため、両館担当者による協議を重ね、図書館所蔵の移民資料を当館に移管していただく形での資料統合が実現しました。今後は、当館3階の移民コーナーで順次公開する他、閲覧希望者への一層のサービスに務めて参ります。(野本)



平成25年3月に開設された「ブラジル移民コーナー」。当館所蔵の竹村殖民商館関係資料93点のなかから、契約移民原簿・移民船写真などを展示中。

民俗

ネットのなかの博物館

企画展「おさるの楽園」の情報を発信しようと、期間限定でツイッターの中の人になりました。つぶやき始めは開幕1ヶ月後で、フォロアーも多くはありませんでしたが見られた回数をツイートアクティビティで確認すると結構な数でした。

また、インターネットミュージアム(丹青グループ運営)の「ミュージアム干支コレクションアワード2016」に、企画展のコラボ作家・草流舎の田村多美さん作「土佐和紙漆喰張り子 こだき申」をエントリーしました。干支コレは人気投票なので、企画展示室にパネルを作り、参加を呼びかけました。投票結果も60館中4位と好評でした。

ただ、ツイッターは、企画展を撮影OKにしたのに来館者参加を仕掛けられず、来館潜在層への発信力も弱く、活かしきれなかった感が残ります。博物館がネットを活用する可能性と限界、ネットのなかの博物館の立ち位置を考えさせられました。(中村)



土佐和紙漆喰張り子
こだき申
干支コレクションア
ワード4位
応援ありがとうございました!



twitter@rekimin
いいね! リツイート、ありがとうございました!

れきみんのお正月

恒例の「れきみんのお正月」を1月2日に開催しました。館の正面入口では門松がお出迎え。お菓子くじで今年の運だめし。昔なつかしい羽子つき、カルタ、お手玉などを楽しんでいると、コマ回し名人が登場し、会場は一気に「コマ回し大会」の様相に！企画展「おさるの楽園」やコーナー展のミュージアムトーク、新オリジナルグッズの特設販売コーナーなど、楽しいお正月となりました。ご来館ありがとうございます。

(岩本)



消しゴムはんこで春のハガキづくり！

企画展「おさるの楽園」での消しゴムはんこ作家・尾崎浅子さんのコラボは、ポスターのデザイン、「消しゴムはんこの植物園」展、ワークショップ「春のハガキづくり」と多方面にわたりました。ワークショップに参加した皆さんは、繊細で味わい深い尾崎さんの消しゴム版画がどのように生まれるのかを目の前で見せてもらい、道具や工夫を教わって大満足の様子でした。皆さん、熱心にホリホリ、ペタンと楽しみながら、それぞれ素敵な春のハガキをつくりました。

(中村)



2016 .2.20 真剣! asakozirusiの技を学ぶ

れきみんニュース

さよなら遊具広場

岡豊山歴史公園の遊具広場の遊具を撤去しました。地元のみなさまや遠足の子ども達にも人気があった「滑り台」や「ターザンロープ」など、名残り惜しいものばかりなのですが、老朽化には勝てませんでした。史跡でもあるこの場所は文化財保護法の適用を受けるため、南国市教育委員会・埋蔵文化財担当者の立ち会いのもと撤去作業が行われました。すっかり史跡の一部に戻ったこの場所に、フィールドアスレチックがあったことを思い出してみてください。

(岩本)



「龍馬パスポートⅢ」が始まります！

4月から「龍馬パスポート」がリニューアル！当館も観光施設として参加しています。特典は入館料の割引きと、ブロンズ・シルバー・ゴールドパスポートの方にはオリジナル缶バッジをプレゼント。もちろん、今までのものとは違います。デザインはイケメンと評判の「長宗我部元親飛翔之像」(当館入口前・記念撮影スポット)です。サイズも大きくなりました。「龍馬パスポートⅢ」は4年間。あなたも「殿堂入り」「観光達人」を目指してみませんか？「龍馬パスポート」については当館にもパンフレットがございますのでご覧ください。

(岩本)



5月3日(火・祝)は 歴民の日

「国際博物館の日」記念事業

観覧料は無料です

平成3年5月3日に開館した歴民館は今年で25周年を迎えます。

企画展関連の催しや毎年ご好評の「歴民クイズの陣」も実施します。多くの皆様のご来館をお待ちしております。



今年のれきみんのは 物部祭り!

ワクワクワーク 「いざなぎ流御幣切り体験」

10:00～12:00 講師 森安正芳氏 定員20名 ●要予約

公演 物部の踊り「はっさん」 13:00～14:00

レクチャー 湖水祭りの踊りを踊ろう! 出演 物部民謡部

ワクワクワーク 「土佐民話の家@山のお化け話」

14:30～15:00 講師 市原麟一郎氏 定員30名 ●要予約

ミュージアムトーク 15:30～16:30 ●予約不要・観覧券要

物部の物産販売もあります(10:00～15:00)

第七回 長宗我部フェス

5月14日(土) 開催

※最新情報はHPでご確認ください。

岡豊山フォトコンテスト

岡豊山歴史公園の風景写真をご応募ください。
8月31日(水) 締切。詳細は総務事業課までお問い合わせください。

臨時休館のお知らせ

2016年7月4日(月) 館内清掃のため休館します。

岡豊風日(おこうふうじつ) 第93号
平成28年3月31日
編集・発行 (公財)高知県文化財団
高知県立歴史民俗資料館
〒783-0044 南国市岡豊町八幡1099-1
TEL 088(862)2211
FAX 088(862)2110
開館時間 午前9時～午後5時
休館日 年末年始12月27日～1月1日
臨時休館あり
観覧料 通常期(通常展)大人(18才以上) 460円・団体(20人以上)360円
(特別展・企画展通常展示込510円) 団体(20人以上)410円
無料・高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者、療育手帳・身体障害者手帳・障害者手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)
印刷・川北印刷株式会社

http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/
Eメール: rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

企画展 いざなぎ流の里・物部

2016年 4月29日(金・祝)～6月26日(日)

香美市物部町には、陰陽道・修験道・神道などが混交したいざなぎ流と呼ばれる民間信仰が伝わっています。神々をかたどったユニークな形の御幣や土俗的な仮面、神の由来を物語る祭文、豊富で多様な神楽や祈祷のテクニクが日本全国はもちろん海外からも注目を集めてきました。今回は、いざなぎ流の最新の研究成果に加えて物部の歴史や民俗を紹介し、地域文化の伝承について考えます。



●いざなぎ流神楽公演

5月7日(土) 13:00～16:00 ●要予約

●研究フォーラム「いざなぎ流の呪術と神楽」

5月8日(日) 10:00～16:30(予定) ●要予約・観覧券要

講師: 斎藤英喜氏(佛教大学教授)

梅田千尋氏(京都女子大学准教授) 他

●史跡巡り「いざなぎ流の里めぐり」

5月28日(土) ●要予約・参加費要

関連企画 香美市合併10周年記念シンポジウム

香美異界談義

—いざなぎ流から妖怪まで—

5月29日(日) 12:00～17:00

香美市合併10周年を記念して、いざなぎ流や地域文化をトコトン語るシンポジウムが開催されます。

講師: 京極夏彦氏(小説家)

小松和彦氏(国際日本文化研究センター所長)

パネリスト: 橋尾直和氏(高知県立大学教授)

時久恵子氏(香美市教育長)

梅野光興(高知県立歴史民俗資料館)

主催・問い合わせ先: 香美市教育委員会

TEL 0887-53-1082

会場: 高知工科大学(香美キャンパス) 講堂

次回予告

前田博史写真展

ブナシ 撫史

7月15日(金)～
9月19日(月・祝)

日本の山岳の冷温帯に自生するブナ。四国に自生するブナに焦点を当て、その森の豊かさを写真で紹介いたします。

